

研究に取り組むにあたり・・・

学び合い

一人では解けなかった問題が解けるようになる

一人では気付けなかったことに新たに気付くことができる

「どうすればいいかな」「わからないな」
「だって、・・・だから～～～だよ」「そっか、わかった」
「なるほど、・・・ってことなんだ」
自分の考えを言ったり、友達の考えを受け入れたりして考えを深める。



⇒『主体的・対話的で深い学び』へ

学び合いを進める上で、気を付けたいこと

○学び合いをさせる「ねらい」を明確にする

- ・本時のゴールを明確にした上で、「どこで・誰が」つまずくかを予想し、そのつまずきを学び合いを通して解決させる
- ・児童の発言を注意深く見取り、発言をつなぎ、深める場面を焦点化していく
- ・学んだことを習った用語を用いて、自分なりに振り返ることができるようにする

- ・自分の考えを明らかにして深める。
- ・他の考えに気づき、思考を広げる。
- ・皆で考え、練り上げる。
- ・考えの相違点、共通点を聞き合うことで思考を深める。
- ・考えを出し合いながら、協働して解決する。
- ・新たな考えを創造する。

展開に応じた学び合いの場面

学習内容に応じて設定

導入	<ul style="list-style-type: none">・既習事項を確認する学び合い・めあてをつくる学び合い・解決の見通しを共有する学び合い
展開	<ul style="list-style-type: none">・考える手がかりを共有する学び合い・考えを交流し合う学び合い・まとめを確認する学び合い
終末	<ul style="list-style-type: none">・理解を深める学び合い（適用問題の説明等）・自分や友達の成長を認め合う学び合い（振り返り）

○学び合いをさせる形態を工夫する

- ペア（隣の人、前後の人）生活班、同じ考えの人、違うの人、ペアからグループ、グループから全体等、学習内容・ねらい・児童の実態に応じて選択する。



○学び合いを進める上での教師の役割 * 教師は多弁を慎む

- 話合いのねらいを示し、活動をコーディネートする。
- 意図的に指名する。（全体での共有、練り上げ場面） どの考えを、どの順番で
- 児童が発言したことを教師が解説せず、他の児童に説明を補うように働きかける。
- 思考を深める問い返しや思考を揺さぶる発問を工夫する。

「〇〇ってどういうことだろう？」

「本当に・・・なのかな」

- 考えをつなげる。児童と児童

児童と教材

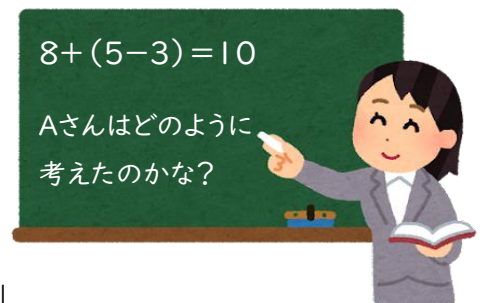
前の考えと今の考え

「Aさんの考えをくわしく言えるかな」

「Bさんの考えは教科書のどこから考えたのだろう」

「今の考えは、前の考えとどこが違うのかな」 ……など

- 誤答を生かす（誤答により学びを深められたことを価値付けられる温かな学級経営）
- なるほどと思った考えや新たに気付いたことをノートに書き加えさせたり、共通している考えに線を引かせたり、学び合うことの意義や考えの深まりを実感させる。



○学び合いができる学習規律、習慣を身に付けさせる

- よい聞き手（聞く姿勢）、よい話し手（相手に伝わる話し方）の力を身に付けさせる。（国語との関連）
 - 聞く姿勢・・・手をとめて、相手に体を向けて聞く。
 - 話し方・・・聞きやすい速さではっきり話す。
- 互いに認め合う気持ち・関係を築けるようにする。

⇒ 学級活動、係活動の充実

